

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2003. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 231

日本野鳥の会 埼玉県支部

旧浦和市域中央部における1970年代からの鳥相変動

小荷田行男（さいたま市）

●はじめに

本誌No.199に「住宅地（浦和市）の鳥18年」（小荷田2000）を発表した。本稿は（小荷田2000）及びその後のデータと既発表の文献を基に1970年代、1980年代と1990年代の旧浦和市域中央部における鳥相比較を行なう。

●対象とする地域

旧浦和市域の第2産業道路と国道17号線の間、現在の行政区分ではおおよそさいたま市浦和区のほぼ全域、緑区の西端、南区の東半分を考察の対象とする。旧浦和市東部の見沼、西部の荒川・秋ヶ瀬を除いた上述の地域である。以下、対象とする地域を「旧浦和市域中央部」と呼ぶ。

●さいたま市旧浦和市域の鳥

さいたま市の旧浦和市域の鳥について調査した文献は、発表順に（石井、海老原、西城戸1984）、（埼玉県野鳥の会浦和支部1985）、（小荷田ほか1993）、（佐藤1999）、（小荷田2000）の5件がある。

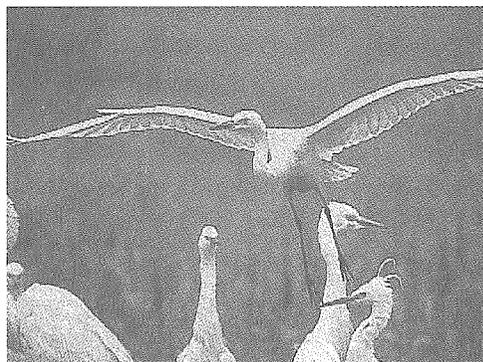
今回、既発表の文献に記述されていない新たな種の追加は無かった。

●1970年代からの環境変化

旧浦和市域中央部は1970年代以降、次の様な環境変化があった。



カッコウ（編集部）



チュウサギ（編集部）

- ・畑、田の面積の大幅な減少。
- ・雑木林の面積の大幅な減少。
- ・3階建て以上のマンションが点在。
- ・広い庭や庭を持つ住宅の減少。
- ・住宅地の中に駐車場がモザイク状に出現。
- ・生垣の減少。

●1970年代との鳥相比較

1970年代と比べ見られなくなった種は、全国で繁殖記録が著しく減少したヒバリ（日本野鳥の会1999）を始め、キセキレイ、セグロセキレイ、トラツグミ、サンコウチョウ、ベニヒワがある。これは主に田や畑、雑木林の大幅な面積の減少が原因と考えられる。

一方、1970年代と比べそれ以降追加された種は、（カワウ）、キジバト、（アマツバメ）、コゲラ、（ビンズイ）、（センダイムシクイ）、（キビタキ）がある。ただし（ ）は通過のみの種と考えられる。

上述の追加された種でキジバト、コゲラは、シジュウカラと共に1980年代、都市部に進出した種（川内1985）として知られており、1970年代の鳥相に対する追加も同様である。

シラコバトは旧浦和市域で見ると秋ヶ瀬、見沼の両地域で以前から生息しているが（石井、海老原、西城戸1984）、この両地域を除く旧浦和市域は現在も生息していない（橋口2001）。

●1980年代と1990年代の鳥相比較

渡りの時期に偶然見られた通過のみの種（イワツバメ、ビンズイ、キビタキ、アマツバメ、センダイムシクイ）を除き、1980年代（1983年～1990年）と1990年代（1991年～2003年）をくらべると、全国で繁殖記録が著しく減少したコジュケイ（日本野鳥の会1999）を始め、カッコウ、アオバズク、アカハラ、モズ、アオジが1990年代以降見られなくなっている。これは環境変化、特に雑木林や田畑の大幅な減少ばかりでなく、住宅地の市街地化や高層化が大きく影響していると思われる。

●まとめ

ヨーロッパにおいては市街地や農村で普通に見られていた鳥が、1990年頃から急速に姿を消している（江口2002）。これは地球規模の環境悪化が主な原因と考えられている。

国内で自然が豊かに残されていると一般に考えられている北海道根室半島基部で、1980年代既にシマフクロウ、フクロウ、シマアオジが見られず、1990年代さらにニュウナイズメ、コムクドリが激減している（小荷田2003b）。釧路湿原においても1980年代後半とくらべアカモズ、コヨシキリ、シマアオジ、ホオアカの減少が著しい（小荷田2002）。

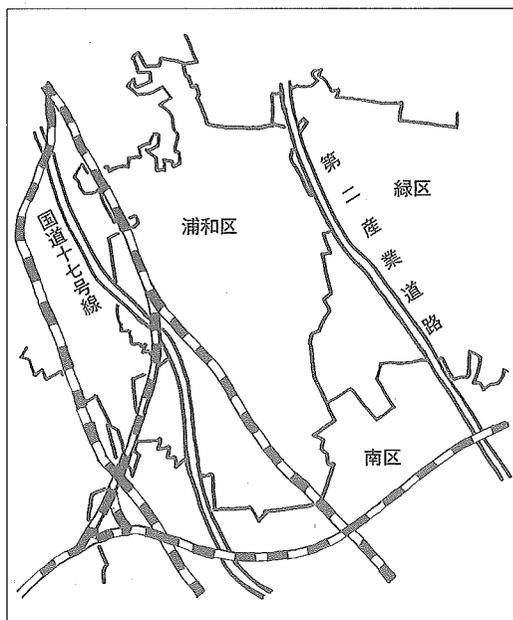
従来、旧浦和市域中央部において普通に見られた鳥が、次から次へと姿を消す事態も今後予想される。身近な所での観察が、地球規模の環境変動を指すバロメーターと成ってしまう時代が、悲しい事に到来している。

●おわりに

本稿はさいたま市立博物館研究紀要No.2に「住宅地の鳥20年—さいたま市浦和区本太一」（小荷田2003a）として発表したレポートをベースにして論じたものである。鳥類リストや統計データなどの詳細は（小荷田2003a）を参照下さい。

文献（発表順）

石井智、海老原美夫、西城戸司 1984 浦和附近の野鳥 浦和国立郷土博物館研究調査報告 No.11 浦和
埼玉県野鳥の会浦和支部 1985 文教都市浦和の野



鳥 埼玉県野鳥の会浦和支部 浦和

川内博 1985 東京におけるコゲラ・アオゲラの平地部進出について 東京都の鳥類2研究紀要 No.16

日本大学豊山中・高等学校 東京

小荷田行男、森本園夫、石井智、三田長久、登坂久雄
1993 埼玉県野鳥分布調査報告 —1985年～1990年—
しらこばと No.107 増刊号 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

佐藤信治 1999 庭にきた鳥 —いのちのドラマを家族でみる— 農山村文化協会 東京

日本野鳥の会 1999 自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 鳥類調査 中間報告書環境庁自然保護局
生物多様性センター 富士吉田

小荷田行男 2000 住宅地（浦和市）の鳥18年 しらこばと No.199 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

橋口長和 2001 シラコバト見つけ隊調査中間報告
しらこばと No.201 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

江口和洋 2002 移入鳥類による鳥類群集の攪乱
これからの鳥類学 裳華房 東京

小荷田行男 2002 釧路湿原、塘路～茅沼における
1983年～2001年の鳥類観察記録 標茶町郷土館報告
No.14 標茶町郷土館 標茶

小荷田行男 2003a 住宅地の鳥20年 —さいたま市浦和区本太一—
さいたま市立博物館研究紀要 No.2
さいたま市立博物館 さいたま

小荷田行男 2003b 根室半島基部における1983年～1993年の鳥類観察記録
根室市博物館開設準備室紀要 No.17 根室

2003年カモ科調査結果

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査が実施された1月11日から13日まで、冬晴れの穏やかな日となりました。

渡良瀬遊水地・貯水池と武蔵丘陵森林公園がやや持ち直し、荒川が増加、菖蒲公園・昭和池が半減、全体としては去年並みの13,000羽強となり、調査開始の1982年以來の最低レベルが続いています。

トモエガモは荒川・道満、菖蒲公園・昭和池、渡良瀬遊水地・貯水池の3カ所で25羽。確認個体数が依然低迷しています。

県内21カ所、35人の会員の方にご協力いただきました。ありがとうございます。

(小荷田行男)

調査地	入間川	荒川						古利根川		渡良瀬遊水地	小畔川調整池
		豊水橋 新見橋	荒川鉄戸橋 川橋	道満湖 (影湖)	秋ヶ瀬 羽橋	荒川大明 川堰	玉淀ダ ム	壽堂橋 橋	藤塚橋 橋		
地域	狭山市	川口市 戸田市	戸田市	さいたま市	江岸市 南谷市	寄居町	越谷市 伏松市	越谷市 春日部市	北川町	北川町	川越市
コブハクチョウ											2
コハクチョウ					185						
オシドリ						213					
マガモ			24	12	89	35				1,453	
カルガモ	47		92	7	3	4	83	49		1,017	
コガモ	91	2	174	3	52		46	253		139	9
トモエガモ			8							7	
ヨシガモ	1		13								
オカヨシガモ	11		48							66	
ヒドリガモ		37	73	6	1		198	15		333	41
オナガガモ	1		25	4	1,776		39			44	132
ハシビロガモ	2		11	2						23	
ホシハジロ			71	8	43						
キンクロハジロ		1	58								
ホオジロガモ			1		7						
ミコアイサ			3							40	
カワアイサ										9	
カモSP			1							992	
種類	6	3	13	7	8	3	4	3		12	3
合計	153	40	602	41	2,156	252	366	317		4,125	182
調査者数	1	1	1	1	1	9	1	1		2	1

新河岸川	百穴湖	武蔵丘陵森林公園	県立農林公園	昭和池	さきたま古墳	白幡沼	見沼自然公園	柳瀬川	黒浜沼	元荒川	
川崎橋～豊橋	大沼	公園内池全部	芳沼	菖蒲公園	古墳全部	沼全部	池全部	富士見栄橋	上沼	城北大橋～水管橋	総合計
川越市	吉見町	滑川町	川本町	久喜市	行田市	さいたま市	さいたま市	富士見栄橋市志木市	蓮田市	岩槻市	
											2
											185
											213
14	127	669	178	470	218		2				3,291
122	30	66	123	255	8		23	44	75	76	2,124
50	24	353	290	52	82	22	54	143	50	127	2,016
				10							25
	1										15
		4	27				4				160
272				138				64		69	1,247
18	1		91	74		12	88	20		4	2,329
	54	71	13	12		3	2	2		3	198
4	1	2	186	164			9				488
			157	133			2				351
				1							9
											43
											9
											993
6	7	6	8	10	3	3	8	5	2	5	
480	238	1,165	1,065	1,309	308	37	184	273	125	279	13,698
2	1	1	1	2	1	1	2	1	1	2	35

日本野鳥の会埼玉県支部規約

第1章 総則

第1条(名称) この支部は財団法人日本野鳥の会(以下本会と称す)の寄付行為31条に基づき設立され、日本野鳥の会埼玉県支部(以下支部と称す)と称する。

第2条(事務所) 支部は事務所を埼玉県さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号室に置く。

第3条(目的) 支部は自然にあるがままの野鳥に接して楽しむ機会を設け、また野鳥に関する科学的な知識及び、その適正な保護思想を普及することにより、県民の間に自然尊重の精神を培い、もって人間性豊かな社会の発展に資することを目的とする。

第4条(事業) 支部は第3条の目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 採鳥会その他の催し物の実施
2. 野鳥等の調査、研究
3. 野鳥を中心とした自然保護に必要と認められる諸活動
4. 支部報その他の出版物の刊行及びその頒布
5. 会員相互の親睦、品位保持、向上に関する施策
6. その他支部の目的を達成するために必要な事業

第2章 会員

第5条(構成員) 支部会員は原則として埼玉県内に居住する本会の会員で構成する。

第6条(会費) 1. 会員は総会において定める会費を納入しなければならない。

2. 会員の資格を失った時、既に納めた会費の返還はしない。
3. 会員の種別と会費、入金は次の通りとする。

個人特別会員 本会会誌『野鳥』と支部報『しらこぼと』を購読する会員

年会費 12,000円(本会会費 10,000円、支部会費 2,000円) 入会金なし

総合会員 本会会誌『野鳥』と支部報『しらこぼと』を購読する会員

年会費 7,000円(本会会費 5,000円、支部会費 2,000円) 入会金 1,000円

支部型会員 支部報のみを購読する会員

年会費 3,000円(本会会費 1,000円、支部会費 2,000円) 入会金 1,000円

家族会員 個人特別会員、総合会員又は支部型会員の家族
年会費 500円(本会会費 500円、支部会費なし) 入会金なし

4. 会費の内本会会費については、本会の規定による各種割引制度の適用もある。

第7条(入会) 会員になろうとする者は入会申込書、会費及び入会金を添えて本会又は支部に提出しなければならない。

第8条(退会) 1. 会員が会費を滞納したときは、退会となる。
2. 会員が本会及び支部の名誉を著しく傷つけ又は本会及び支部の目的に反する行為のあるとき、あるいは本会及び支部の存在を害する虞れのあるときは、役員会の決議を経て退会させることができる。

第3章 役員

第9条(役員) 支部には次の役員をおく。

- 支部長 1名
- 副支部長 3名以下
- 幹事若干名
- 監事 2名

第10条(役員を選任) 1. 役員は総会において、個人特別会員、総合会員又は支部型会員の中から選任する。

2. 支部長、副支部長及び監事は役員互選による。
- 第11条(役員職務) 1. 支部長は支部を代表し業務を総理する。
2. 副支部長は支部長を補佐して業務を掌理し、あらかじめ支部長が定める順位により、支部長が事故あるときはその職務を代行する。
3. 幹事は役員会を構成し支部の業務に関し審議決定し、役員互選により会務を分担し事業の遂行をはかる。
4. 監事は、民法第59条の職務を行なう。

第12条(役員任期) 1. 役員任期は1年とする。ただし再任

を妨げない。

2. 役員は任期終了後も後任者が就任するまでその職務を行なう。

3. 補欠による役員任期は前任者の残任期間とする。

第13条(役員解任、補欠) 役員が支部の役員として不適当と認められる時は役員会の3分の2以上の議決又は総会においてこれを解任及び補欠することができる。

第14条(評議員) 本会の評議員として役員の中から1名互選する。

第15条(顧問) 1. 支部には必要に応じて顧問を置くことができる。

2. 顧問は役員会の承認を経てこれを委嘱する。
3. 顧問は支部の事業について役員会に助言を与えることができる。

第4章 総会

第16条(総会) 1. 総会は個人特別会員、総合会員又は支部型会員をもって組織し、通常総会は毎年1回5月又は6月に開くものとする。

2. 臨時総会は役員会が必要と認めるとき又は個人特別会員、総合会員、支部型会員の3分の1以上から会議の目的を示して請求があったとき、開かなければならない。

3. 総会を招集するには少なくとも開催日の7日前には会議の日時、場所、会議の目的を示して会員に通知しなければならない。

第17条(総会の議決) 1. 総会の議事は出席者の過半数で決し、可否同数の場合は議長が決するところによる。

2. 支部規約の変更は出席者の3分の2以上をもって決する。
3. 支部の存在に関わるほど重大であると判断される事項については、会員全員の意思を十分に反映できる方法を考慮しなければならない。

第18条(総会の議決事項) 総会では次の事項を議決する。

1. 規約の変更
2. 役員を選任及び解任
3. 事業計画、事業報告、予算、決算の承認
4. その他支部の運営上特に必要な事項

第19条(役員会の開催、成立) 役員会は、支部長又は役員2分の1以上が必要と認めるとき、開催される。

第20条(役員会の議決) 役員会は本規約で定められたもの他、会務執行に関する事項その他の事項を議決して処理する。又その議決は第17条の規定を準用する。

第5章 資産及び会計

第21条(資産及び運用) 支部の資産は次の通りとし、経費その他に運用する。

1. 設立当初、支部設立準備会から継承されたもの
2. 会費及び寄付金
3. 事業から生ずる収入及びその他の収入

第22条(事業及び会計年度) 支部の事業及び会計年度は1年として、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第6章 委員会及び部

第23条(委員会及び部) 1. 支部は会務運営ならびに第4条の事業遂行の為、必要な委員会及び部を設けることができる。
2. 委員会及び部の設置及び廃止は役員会で決議する。

第7章 分会

第24条(分会) 支部は目的推進のために支部会員で構成された分会を役員会の承認により設置または廃止することができる。

第8章 その他

第25条 この規約に定めない事項については、本会の寄付行為の定めるところによる。

附 則

- 第26条 1. この規約は、本会理事会にて支部設立の承認のあった日(昭和59年4月24日)から施行する。
2. 支部設立初年度の役員は、第10条の規定にかかわらず、設立準備会に於て決定された役員とする。
3. 支部設立初年度は、以上の規定にかかわらず、第1回役員会を以て総会にかえる事ができる。

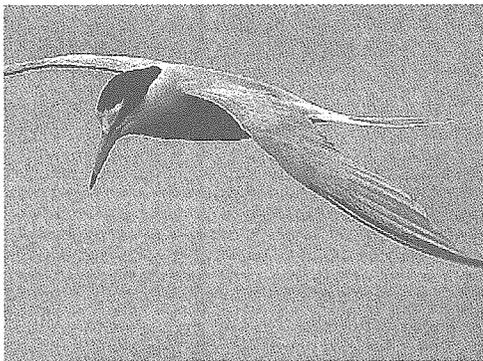
変更: 昭和62年6月7日・平成6年6月26日・平成12年6月25日・平成14年6月30日



岩槻市岩槻文化公園 ◇4月4日朝、トラツグミが林床で採餌。4月10日昼過ぎ、アカハラ、アオジ、シメ、アトリ約7羽など。まだ冬鳥ばかり。4月17日午後、マヒワの声、アオジ、シメなど。冬鳥だけかと思ったら、コムドリ♂1羽とヤブサメの声確認。4月18日朝、アカハラ、クロジ？、マヒワ8羽など見ていたら、「チョチョビー」のセンダイムシクイの声。4月22日、コムドリ♂♀各1羽。アカハラ、シロハラもしっかり残っている。5月2日、カイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモ、コジュケイ、キジバト、サシバ(飛)、チョウゲンボウ(飛)、オオタカ(声)、コアジサシ(飛)、ヒバリ(飛)、コゲラ、シジュウカラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、アカハラ3羽、メジロ、アオジ、ホオジロ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ツバメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス(鈴木紀雄)。

岩槻市増長 ◇4月25日午前、鉄塔でハヤブサ。チュウサギ約20羽、ムナグロ6羽(鈴木紀雄)。

岩槻市長宮 ◇4月26日、水田や畔でムナグロ約30羽、コアジサシ4羽、タヒバリ5羽。4月28日、コアジサシ6羽、セイタカシギ1羽。セイタカシギは、頭頂から後頸にかけてくっきり黒く、一瞬オーストラリアセイタカシギかと思ったが、ただのセイタカシギだった。5月5日、ムナグロ約40羽、



コアジサシ (編集部)

タシギ1羽。5月6日、ムナグロ約40羽、イソシギ1羽。5月7日、ムナグロ30羽十、タシギ約10羽、オオジシギ1羽(鈴木紀雄)。

岩槻市横根、さいたま市藤子 ◇5月17日、横根から藤子にかけての田んぼでコチドリ1羽、オオヨシキリ2羽、セッカ1羽、上空でチョウゲンボウ♂1羽(藤原真理)。

蓮田市黒浜 ◇4月7日午後、用水沿いの枯れ草で冬羽のノビタキ1羽。4月16日午後、下沼の葦原でほぼ夏羽のノビタキ♂1羽。セッカがさえずっていた。療養所内の林でマヒワ約10羽が飛び回り、林床でトラツグミが歩いていた。まだ冬。4月24日午後、療養所内で「ヒョヒョヒョ」と通る声の主をつきとめたらアオゲラだった。アカハラ、シメ約10羽。いまだ夏鳥でず。4月30日、ムナグロ約30羽、50羽、70羽の3つの群れで約150羽。キアシシギ2羽。療養所内でシメ約30羽の群れ。ゴルフ場の森でセンダイムシクイ、オオタカの声。5月7日、ムナグロ約140羽、タシギ1羽、ウズラシギ1羽。上沼脇の水田でバン1羽とつかず離れずタマシギ♂♀各1羽(鈴木紀雄)。

伊奈町大針 ◇4月15日午後、新幹線高架下のコロニーを久しぶりに見に行ったが、イワツバメ2羽が飛ぶのみ。今年も繁殖してくれるかな。5月8日、同所でイワツバメ3羽確認。今年もコロニーは健在か？(鈴木紀雄)

春日部市内牧 ◇4月22日朝、センダイムシクイ3羽。4月25日午後、「ピッピッ」とよく通る地鳴きのエゾムシクイ1羽、すぐ近くで「シシシ・・・」と鳴くも姿の見えないヤブサメ1羽(鈴木紀雄)。

春日部市増長周辺 ◇4月28日、ムナグロ10羽、アマサギ4羽。アマサギはきれいな繁殖羽。5月9日、ムナグロ約50羽、チュウシャクシギ3羽(鈴木紀雄)。

越谷市北後谷 ◇5月4日午前8時50分～10時、県民健康福祉村公園と公園南西側でオオヨシキリ2羽、ツグミ、バン、コチドリ1羽、シラコバト2羽、コガモ4羽、ユリカモメ2羽、ツバメ2羽、ゴイサギ14羽、アオサギ7羽、コアジサシ6羽など。冬鳥

のツグミとコガモがまだ残っている。葦原が以前より少なくなり、ガマが多くなったせいか、オオヨシキリ、ヨシゴイが減少。バン、オオバンが増えた。ちょっとした環境の変化で生態系が変わるものですね。5月5日午後2時40分頃、ムナグロ7羽(小菅靖)。

越谷市中島 ◇5月5日午前10時15分、中川と新川の合流点のサギのコロニーでダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ約60羽を観察しました。アマサギは夏羽でした。その他のサギ類も夏羽になっていて嘴が黒く、目先がピンク色、緑色、黄色、赤色、赤ピンク色といいて難しい。大きさも並んでいないと難しい。頭がパニックになりそうでした(小菅靖)。

さいたま市大谷 ◇4月17日午後、環境広場でクサシギ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇4月23日午前、子供の森でサンショウクイの声。5月7日、大久保農耕地A区でムナグロ約100羽。Aサイド区でムナグロ約40羽、キョウジョシギ2羽。5月12日、A'区でムナグロ約30羽。A区でムナグロ約60羽(鈴木紀雄)。◇5月10日、ピクニックの森でキビタキ(陶山和良)。

さいたま市新開 ◇5月10日、田植え前の田んぼでムナグロ22羽(陶山和良)。

さいたま市道場 ◇5月10日、土手でチョウゲンボウ(陶山和良)。

さいたま市桜区 ◇5月4日、白楸・在家の境を流れる鴨川の在家橋でイワツバメ数羽が橋の裏側へ入っては出てくるので、橋の下の通路から見上げたところ、コンクリート製の橋桁の薄暗がりにつぼ形の巣が幾つか並んでいるのが見えた(大塚純子)。



私もタマちゃんです(編集部)

三郷市上口 ◇4月20日午後、中川のアゴヒゲアザラシを見ていたら、コアジサシ3羽、ユリカモメ夏羽1羽、オオヨシキリを確認(鈴木紀雄)。

志木市宗岡 ◇4月23日午後、水田でムナグロ150羽弱(鈴木紀雄)。

戸田市道満グリーンパーク ◇5月29日、カッコウ2羽、大きなケヤキの梢の上すれすれを尾を広げ、2羽が何回となく旋回しては枝にとまる。鳴き声は掠れて下手。オオヨシキリ4羽、ゴイサギ1羽(陶山和良)。

さきたま古墳 ◇4月22日、センダイムシクイの声。4月28日午前8時30分、オオヨシキリ1羽。8時35分、エゾムシクイ1羽、木の梢で鳴きながら採餌(逸見嶮)。

川本町荒川 ◇4月28日午前8時30分~午後12時、白鳥飛来地周辺でヒレンジャク1羽を数カ所で確認後、駐車場付近で7~8羽。アオジ、ビンズイ、コチドリ、キンクロハジロ他計37種(鈴木敬)。

寄居町町中間平緑地公園 ◇5月2日午前9時15分~午後12時30分、オオルリ♂1羽、クロツグミ♂2羽、ビンズイ数羽、シメ多数、イカル、トビ、ヤブサメのさえずり他計24種(鈴木敬)。

表紙の写真

フクロウ(フクロウ目フクロウ科フクロウ属)

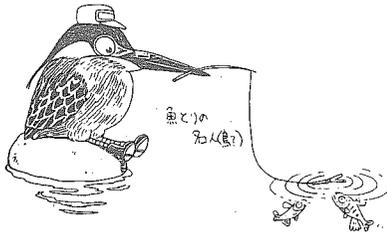
フクロウも深刻な住宅難です。

今年も元気に巣箱から巣立ちました。

この巣箱では3羽巣立つことが多いのですが、今年は2羽、例年より1週間早い巣立ちでした。

写真と文 中田 寛(さいたま市)

行事案内



ササゴイ (富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も (なくても大丈夫)。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月6日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時30分、板倉町総合運動公園。

交通：東武日光線新越谷7:11→春日部7:25→栗橋7:54→板倉東洋大前8:06着。
JR宇都宮線浦和7:01→大宮7:08→栗橋7:43着にて東武日光線乗り換え。

解散：午前11時30分ごろ、アシ原浄化ゾーンにて。

担当：橋口、伊藤(隆)、内田、四分一、田邊、玉井、田村、中里

見どころ：渡良瀬夏の恒例。アシ原浄化ゾーンで、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカの合唱とヨシゴイ、ササゴイの飛翔を堪能します。カッコウも托卵を狙って現われるかも知れません。集合場所は今回板倉町に変わっていますのでお間違えないように。暑い季節です。帽子と飲み水は忘れずに。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乘車。

担当：島田、森本、中里、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、飛田、大澤

見どころ：梅雨が明ければ、夏の真赤な太陽。

暑いからなどと言わないで鳥見に参加しませんか。鳥数は少ないけれど、夏羽のハクセキレイ、ササゴイ、オオヨシキリが待っていますよ。河原は日陰がないので帽子や、飲み物の暑さ対策をお忘れなく。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月13日(日)

集合：午前9時40分、森林公園南入口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスにて終点下車。

費用：参加費のほかに、入園料400円(子供80円)

担当：佐久間、藤掛、内藤、岡安、青山、喜多、後藤、山田(義)、高橋(優)

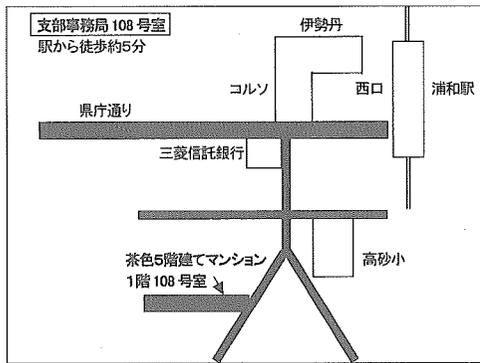
見どころ：蒸し暑い日が続きますが、そろそろ梅雨も終わり。緑の森の中に小鳥を探し、ホトトギスの声を聞き、オオムラサキ、ヒカゲチョウなどの蝶を探します。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月19日(土)午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

案内：梅雨が明けて最高の時期到来です。夏山に涼を求めつつ鳥影を追う、これまた最高。そんなチャンスを逃している方、ここにいらして最新夏鳥情報を得てからでも、まだ望みはありますよ。いつものようによろしくお願ひします。



さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月20日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、赤堀、小菅、新部

見どころ：梅雨が終わって夏の季節がやってきた。今年は海の日で三連休。どこかの海岸に海鳥を見に行こうかな。でも三室の探鳥会に行こう。いつもの鳥と仲間が待っているから。暑い日ですが、代用水と桜並木で汗を流しましょう。是非どうぞ。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月27日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、または所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光、山田（義）

見どころ：鳥が少ない7月にも、コサギ、カルガモ、キジバトなど出現率100%の鳥たちが12種います。今回もその記録は続くのか。河原は日陰が少なく例年同様で猛暑が予想されます。飲み物、帽子は必携です。

●トキの講演会

講師：近辻宏輝氏

（前佐渡トキ保護センター長）

テーマ：「トキの過去・現在・未来」
トキ保護にかかわった半生のエピソードなども交え、トキの生態や保護活動、佐渡トキ保護センターの役割などについて語ります。

日時：7月5日（土）

午後4時半から2時間ほど

場所：退職金機構ホール（港区芝公園1-7-6退職金機構ビル8階、都営浅草線大江戸線大門駅徒歩7分、都営三田線御成門駅徒歩5分、JR浜松町駅徒歩7分）

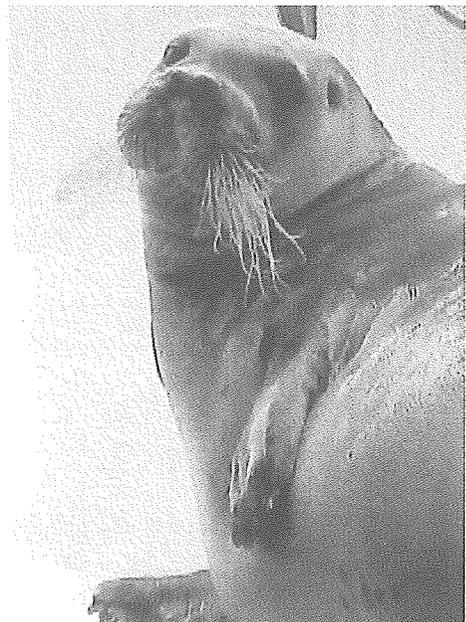
参加費：1,000円

申し込み：新和ツーリスト(株)ネイチャリングクラブデスク

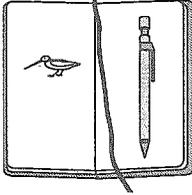
TEL 03-5627-7731

FAX 03-5627-7719

会場の都合で予約制です。



私も探鳥会に行きたい



行事報告

2月15日(土) 東京都 不忍池

参加: 5人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ マガモ
カルガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ
ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ト
ビ オオタカ バン ユリカモメ セグロカモメ
オオセグロカモメ ウミネコ キジバト コゲラ
ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス シ
ジュウカラ メジロ スズメ ムクドリ ハシブ
トガラス (30種) 参加者は5人。すぐにうちとけ
て、互いに名前呼び合うほのぼのとした探鳥会
だった。このよさは、とにかく鳥と人間の距離
が近いこと。おかげで、みなさんのカモのぬり絵
は秀作ぞろいだった。(山部直喜)

2月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 32人 天気: 雨

カイツブリ ゴイサギ カルガモ コガモ バン
イカルチドリ タシギ ユリカモメ キジバト
コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ
ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ ア
オジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ ハシブトガラス ハシボソガラス (30
種) 朝は降っていなかったので実施することに
した。9時頃から雨。でも参加者が大勢で嬉しくな
る。サービス精神を発揮して、博物館の南側の雑
木林や里道を歩いた。長屋門や神社への小道、み
んなが喜んでくれた。鳥も一人1種と出てくれた。
雨でも三室はいいのです。(楠見邦博)

2月22日(土) 羽生市 水郷公園

参加: 13人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ オナ
ガガモ ハシビロガモ トビ バン オオバン
シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ヒバ
リ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ

モズ ツグミ ウグイス ホオジロ カシラダカ
アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ
シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (36種) スタートしてすぐにベニマシ
コ♀、オシドリ♂が出て皆大喜び。湿地ではカ
ワセミをじっくりと観察できた。タカ類を期待し
たのだが、出たのはトビだけだった。ちょっとが
っかり。途中、小雪が舞ってきたりしたが、少人
数での和気藹々の探鳥会だった。(中里裕一)

2月22日(土) 東松山市 物見山

参加: 23人 天気: 曇

カワウ オオタカ ノスリ キジバト アカゲラ
コゲラ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビ
タキ トラツグミ アカハラ シロハラ ツグミ
キクイタダキ エナガ コガラ ヤマガラ シジ
ュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤ
マホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ ベニ
マシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス
ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 市民の
森でカラの混群に遭遇。尾根伝いではルリビタキ、
ノスリ。入山沼ではトラツグミ、ミヤマホオジロ。
参加者快感度100%。谷津田ではウソ、ベニマシコ、
アトリ。快感度200%。全員固まってしまう。冬鳥
のオアシス物見山に感謝。(島田恵司)

2月23日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加: 49人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ コガ
モ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ
コジュケイ イソシギ セグロカモメ キジバト
カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハク
セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジ
ョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナ
ガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダ
カ アオジ オオジュリン アトリ カワラヒワ
ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (41

種)心配された雨も止む。出発後間もなくカワセミのお出迎え。続いてカワラヒワ、ツグミ、カシラダカ、シメ、シロハラ等が次々に出現し、その場を離れ難かった。アシ原ではチョウゲンボウ、セグロカモメの飛翔を全員で観察。数名だがアトリ、ベニマシコ、エナガまで見ることができ、大満足の探鳥会だったかと思う。(中村榮男)

2月23日(日) 富士見市 柳瀬川

参加: 38人 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ イカルチドリ イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 小中学生の参加もあり、気分が違う。ヒドリガモ、動きの早いタヒバリを見て、左の田んぼを見ればキジがこちらを向く。メジロの奥にアカハラが暫く姿を見せた。高橋を渡り、歩道から中洲のイカルチドリ、タシギの数を数える声が大きくなる。タゲリは残念ながら次回に期待しよう。(高草木泰行)

3月2日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ オナガガモ ホシハジロ トビ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト ヤマセミ カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 護岸工事の関係か、このところヤマセミの姿がなかなか観察できない。今回もかなり遠くの鳴き声と飛翔を数人が確認しただけだった。楽しみにしていた参加者の落胆はいかばかりだったろう。また、例年のような早春の山野草の観察も難しかった。それでもイカルの群れやさえずりを観察し、春の訪れが近いことは実感できた。

(小池一男)

3月2日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 16人 天気: 晴

カワウ キジバト コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (19種) 顔を上げられないほどの強風のため、上沼の水面は白波ばかりで鳥は0羽。しかし、あの小さなホオジロやカシラダカの群れが田圃に出て餌を探している姿には胸が熱くなった。風を避けて林の中のコースに変更したが結局19種に終わった。(玉井正晴)

3月8日(土) 加須市 はなさき公園

参加: 26人 天気: 晴

カワウ ダイサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ オオタカ チョウゲンボウ キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 開始前から風が出てきた。不安がよぎる。そんな中でスタート早々ジョウビタキが出迎えてくれた。池ではヒドリガモ、ハシビロガモを順光で見ることができた。植物園ではヤナギが花咲いていた。農家の屋敷林を通してアシ原に出るころには風が一層強くなったため早目に切り上げた。強風のためか、あまり鳥が出ず心残り。(中里裕一)

3月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 62人 天気: 晴

カワウ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 朝から風が強く、風を避けてゴルフ場南側のコースを取った。鳥影は少なかったが、2羽のノスリが青空をバックに舞い、透けるような羽根の色が美しかった。この他にもオオタカ、ミサゴ、チョウゲンボウが出て、猛禽の日となった。残念ながらお目当てのベニマシコ、レンジャク、ミヤマホオジロはお預けとなった。(和田康男)

連絡帳

●「yamabezuku」に事故発生

下記の編集部宛メールアドレス「yamabezu ku@hotmail.com」に一時的に事故が発生し、いくつかのメッセージが失われた可能性があります。1~2ヵ月以内に送信し、こちらから何も反応がなかった方は、まことに恐れ入りますが、もう一度送信をお願いします。

●「ひろせ野鳥の森」駅に野鳥図鑑

秩父鉄道大麻生駅の隣に新設された「ひろせ野鳥の森」駅を、近くで見られる野鳥の図鑑で飾ることになりました。

まずは駅内広告の一部に割り込む形で、いづれ専用の野鳥図鑑パネルなども整備していくという計画です。

●シラサギの情報お送りください

埼玉県農林総合研究センター(〒360-0831 熊谷市久保島 1372)生産環境担当渡辺俊朗氏(支部会員)から、生物が生きやすい農業用排水路の復活を目指す研究の一環として、シラサギ類の夏ねぐらとコロニーに関する情報について、協力の依頼がありました。

今後3年間に、県内の夏ねぐら(数羽以上が1週間以上夕方とどまっている状態)とコロニーに関して情報がありましたら、ご連絡をお願いします。お送りいただいた情報は、支部としても活用させていただきます。

TEL 048-521-9462 FAX 048-522-1840
e-mail a0142154@pref.saitama.jp

●新しい探鳥地案内出版の企画

文一総合出版から、全国の新しい探鳥地案内を出版したいので、埼玉県内の分を執筆してくれないかと、依頼がありました。

5月の役員会で相談して、支部として引き

受けるのではなく、幹事数名が地域的に手分けして、直接文一総合と連絡取り合い、書いていこうということになりました。

原稿の締め切りは9月末。発行はその後になります。

●7月の事務局 土曜と日曜の予定

- 5日(土) 8月号編集作業。
- 12日(土) 8月号校正。
- 19日(土) 袋づめの会。
- 20日(日) 役員会。

●会員数は

6月1日現在 2,536 人です。

活動報告

- 5月8日(木)本部の寄付行為委員会に出席、13日(火)監査実施、15日(木)と27日(月)常務会に出席(海老原美夫)。
- 5月10日(土)6月号校正(海老原美夫・大坂幸男・田中幸男・藤掛保司)。
- 5月18日(日)支部役員会(司会:大坂幸男、総会準備・シラサギ情報依頼への対応・文一総合出版原稿執筆依頼への対応・学校からの指導依頼への対応・その他)。
- 5月19日(月)秩父鉄道担当者来所。野鳥図鑑打ち合わせ。
- 5月27日(火)本部の理事会に出席(海老原美夫、楠見邦博)。

編集後記

今年は新三郷駅の跨線橋が三分の一に短縮されて心配していたが、チョウゲンボウの繁殖を確認できた。ここでの繁殖はもう10年になる。今までは下向きの穴の中に営巣していたが、梁の横向きの際間に場所を変えていた。駅の東口を出て右手、便所の上。ペリットや糞が落ちている。これがお手元に届くころには無事巣立っていると思う。(山部)

しらこぼと 2003年7月号(第231号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
 本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社